

「使徒的勧告『喜びに喜べ』現代世界における霊性 教皇フランシスコ」

129 聖性はパレーシア(parrhesia)でもあります。それは、大胆さ、この世に影響を与えようとする福音宣教者の機動力です。それをもてるようにと、イエスご自身がわたしたちのもとに来られ、優しく、けれどもきっぱりと、繰り返しいわれます。「恐れることはない」(マルコ 6・50)。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいる」(マタイ 28・20)。こうしたことばがわたしたちを、聖霊が使徒たちにかき立てイエス・キリストを告げさせた、勇気に満ちたあの姿勢をもって歩み、働けるようにしてくれます。大胆さ、熱意、躊躇のない語り、使徒的情熱、これらはすべてパレーシアということばに含まれているものです。さらに聖書はこのことばを使って、神や他者のために開かれた、何ものにもとらわれないあり方を説明しています。(使徒言行録 4・29、9・28、28・31、ニコリント 3・12、エフェソ 3・12、ヘブライ 3・6、10・19 参照)。

130 福者パウロ六世は、福音宣教を妨げるものの中で、とりわけパレーシアの欠如について語っています。「それは熱意の欠如ということです。内部からくるものだけに、いっそう重大な妨げです」※。わたしたちは、危険のない陸近くから離れずにいたいと考えてばかりいます。しかし主は、沖に出て深いところに網を下ろすよう招いておられます(ルカ 5・4 参照)。主はわたしたちを、ご自分への奉仕に人生をささげるよう召し出しておられます。主に根ざすことで、他者への奉仕に自分のカリスマのすべてをささげるよう励まされるのです。主の愛に駆り立てられていることを自覚し(ニコリント 5・14 参照)、聖パウロと声を合わせて「福音を告げ知らせないなら、わたしは不幸なのです」(一コリント 9・16)といえるようになりますように。